子どもに関する課題解決へ 第三者機関の設置を

連合会 市民の連

西田政充
野村生代
八尾善之
奥野美佳
番匠映仁

西田政充

質問　子どもに関する様々な課題を解決するため、総合窓口を明確化し、一元的な対応を図っていくというが、どのような体制を整備するのか。

　また、いじめ事案などでは、専門家等から成る第三者機関が相談や救済を行うことが有効な手だてとなる場合もある。子どもの権利擁護を主目的とした第三者機関の設置について、４年度中に検討するよう望むが、見解を聞く。

答弁　子どもや保護者が相談したいときに迷うことのないよう、子どもの育ち見守りセンター（となとな）に相談窓口となる「子ども相談課」を設置する。様々な相談に対し、福祉、教育、医療等の関係機関が連携し、状況に応じた必要な支援を届けるため、となとなが総合調整を行いながら、早期解決を図っていく。

　また、いじめ事案では、スクールロイヤー（＊５）やスクールソーシャルワーカー（＊６）が学校への助言や支援を行っている。今後、行政的・法的アプローチ等も含めた施策の充実を図る中で、第三者機関の設置についての必要性や効果等の検討を続ける。

子ども相談課窓口

地区防災計画の策定 今以上の積極的な支援を

質問　市はこれまで、地域において災害リスクや避難ルール等を地区防災計画（＊７）にまとめるため、職員派遣や資料提供を通じて地域を支援してきた。今後は広域避難も踏まえた地域主体の計画策定を支援し、地域防災計画（＊８）へ反映させ、市全域の防災力向上につなげていくというが、具体の支援内容を聞く。

　また、現時点で地区防災計画を策定した校区は８校区にとどまっている。大規模災害時における共助の力を高めるためにも、同計画の策定支援を今以上に積極的に進めるべきと考えるが、見解を聞く。

答弁　従来の支援に加え、浸水想定区域外への避難や複数校区による避難所運営等、広域避難のテーマに特化した地区防災計画の策定に取り組む地域へ、広域避難のために決めておくべきポイントを提示するなど、新たな支援も行う。

　また、同計画の策定推進に向け、未策定地域へ先行事例を共有し、広域避難に取り組む地域へ職員派遣等を行う。

公共交通の利用促進へ バス停の環境改善を

質問　高齢化が進む中、バスやタクシー等の移動手段は今後さらに重要になると考える。市は、バス停の環境改善で利用促進を図り、公共交通の維持、拡充につなげていくというが、改善の内容を聞く。

　なお、バス停へのベンチの設置や、涼しい状態で待てる環境を整備することは、必ずバスの利用促進につながると考えるため、交通事業者と共に改良を進めるよう要望する。

答弁　猛暑対策として、府補助金を活用し、バス停の上屋を遮熱性タイプへ交換するほか、保水性等を有する舗装への改良、周辺の緑化促進等に取り組む。また、乗り入れ部付近の安全柵の移設や改良、損傷の激しいバス停付近の舗装の修繕等を、安全、安心を確保する観点から、交通事業者と協議の上、実施している。

◆その他の質問

○地元の意見を十分に踏まえ幼児療育園跡地の活用を

○市全体で地元スポーツチームを応援し地域の活性化を本市をホームタウンとするスポーツチームの地元開催試合と連動し地域のにぎわいを創出するとあり、市内事業者による商品販売や、ハーフタイムを市内ダンスグループが盛り上げること等により、にぎわいにつなげていくという。例えば地元サッカーチームのＦＣティアモ枚方との連携であれば、まずは認知度を高めるサポート等も必要と考えるが、どのような連携を行うのか。

　なお、行政とチームそれぞれにメリットのある、相乗効果を生み出すような連携が市全体の盛り上がりにもつながると考える。チームを取り巻く環境によりサポートの仕方も変わるため、状況等に応じた連携や支援を要望する。

答弁　ＦＣティアモには、子どもの夢を育む取組として、小学校での出前授業や試合前のサッカー教室等を積極的に行ってもらっている。全ての市民に認知されるチームとなるよう、広報ひらかたやＳＮＳ等での広報活動、イベントの開催等で連携していく。

許せない中国の人権侵害 友好都市提携の見直しを

ひらかた自由民主党議員団

田口敬規
漆原周義
加藤治

田口敬規

質問　ウクライナに侵攻したロシアに対して市が抗議文を出したことは評価するが、一方で、市の友好都市である上海市長寧区がある中国では、重大な人権侵害が行われている。本市は非核平和宣言都市であり、また、人権尊重宣言都市でもあるため、（仮称）人権施策基本計画の策定は当然取り組むべきだが、あらゆる人権侵害を許さない市の姿勢を今後どう発信していくのか。

　なお、長寧区との友好都市提携の見直しも含め、中国政府に対し、人権弾圧を許さない断固たる意志を毅然とした態度で示すよう強く要望する。

答弁　人権施策をより効果的、総合的に推進するため、同計画を策定する。組織横断的に人権施策の取組を進める中で様々な機会を捉え、人権侵害を許さないという市の姿勢を効果的に発信していく。

ＦＣティアモ枚方の試合

地元スポーツチームとの連携 チーム環境に応じた支援を

質問　市政運営方針において、本市をホームタウンとするスポーツチームの地元開催試合と連動し地域のにぎわいを創出するとあり、市内事業者による商品販売や、ハーフタイムを市内ダンスグループが盛り上げること等により、にぎわいにつなげていくという。例えば地元サッカーチームのＦＣティアモ枚方との連携であれば、まずは認知度を高めるサポート等も必要と考えるが、どのような連携を行うのか。

　なお、行政とチームそれぞれにメリットのある、相乗効果を生み出すような連携が市全体の盛り上がりにもつながると考える。チームを取り巻く環境によりサポートの仕方も変わるため、状況等に応じた連携や支援を要望する。

答弁　ＦＣティアモには、子どもの夢を育む取組として、小学校での出前授業や試合前のサッカー教室等を積極的に行ってもらっている。全ての市民に認知されるチームとなるよう、広報ひらかたやＳＮＳ等での広報活動、イベントの開催等で連携していく。

子どもの貧困対策へ まずは詳細な実態調査を

質問　今日、日本の子ども７人に１人が貧困状態にあると言われる中、貧困等によって子どもの学びの機会やそれぞれの可能性が奪われることなく、健やかな成長を保障することが重要と考える。

　本市が平成28年度に実施した「子どもの生活に関する実態調査」では、生活に困窮する家庭の子どもほど勉強時間が短いなどの実態も明らかになったが、コロナ禍で状況はさらに悪化しているのではないか。まずは詳細な調査等を踏まえた上で、必要な施策の推進を求めてきたが、見解を聞く。

答弁　４年度に同実態調査を行い、子どもの課題が複雑化、複合化する中で、家庭における経済的な悩みの有無も含め、昨今、新たな課題が浮き彫りになってきたヤングケアラー（＊３）の実態を把握する。

　また、日常生活の状況が子どもの学習環境や将来の希望、目標等にどのような影響を与えるのか等についても併せて把握する予定であり、調査の結果を踏まえ、市の実情に合わせた施策構築を図っていく。

◆その他の質問

○医療的ケア児受入れのため人員面、環境面の整備を

○部署をまたぐ連携で多胎児家庭へ切れ目のない支援を

保健所機能 パンデミックに備え 本庁舎等に設置を

日本共産党議員団

広瀬ひとみ
野口光男
堤幸子
松岡ちひろ

野口光男

質問　市駅周辺再整備で進める③街区（＊１）の行政サービスは、都市型図書館、子どもや子育て世代、若者が集える施設を整備すべきである。さらに、（仮称）市民窓口では、ワンストップで手続を完結するのは難しい。市民の期待に応えていない行政サービス再編は、新庁舎の位置と併せて見直すべきではないか。

　また、保健所機能を保健センター内に移すというが、新型コロナ感染症のようなパンデミック（＊９）が起きた場合の最前線拠点である保健所機能は、災害対策本部がある本庁舎内か隣接場所に置くべきではないか。

答弁　（仮称）市民窓口の具体化を図るため、ＩＣＴを活用した行政サービスの在り方について、検討を進めていく。

　また、行政サービス再編に伴い、③街区に保健センター機能を移転させた後、現保健センター内に保健所機能を移すことで、市立ひらかた病院等との連携を強化していく。

職員の不祥事撲滅に向け コンプライアンスの徹底を

質問　市政運営方針に、さらなる市民の信頼を得られる組織を目指すとあるが、この間も職員の不祥事が起きている。原因をどう考えているのか。

　また、不祥事の再発防止策が機能しない組織体制と人事配置について、責任の所在を明確にすべきである。さらに、コンプライアンスを徹底するために、弁護士を正職員雇用する、専門性が発揮できる機構にするなど目に見える改革、抜本的な取組が必要と考えるが、見解を聞く。

　なお、現行の総合評価制度は、上司からの評価を気にして仕事を行うことにつながると考えるため、同制度は廃止すべきと意見しておく。

答弁　不祥事の発生は、日常的な職場の風通しの悪さ等も要因の一つと考えている。

　また、組織体制や職員の意識改革等も含め、不祥事の撲滅と再発防止に向けて全力で取り組んでいく。

社会状況に応じて 重点施策に追加を

質問　市政運営方針の８つの重点施策は、２期目の就任以降、施策の種類も順番も同じである。本市の高齢者人口は２０２５年にピークを迎えるなど、高齢者施策は現下の課題であり、重点施策に加えるべきと考えるが、見解を聞く。

　また、今般の新型コロナ感染症によるパンデミックなど、危機事象対応について全庁的に総合的課題として重点施策に置くなど、社会状況の変化等にも対応すべきではないか。

　なお、市政運営方針こそ、これまでの前例踏襲主義から脱するべきと意見しておく。

答弁　２期目のスタートに当たり、４年間での取組を８つの分野で示した。これは、毎年度、明確に伝えていけるよう引き継いでいるものだが、高齢者施策は就任時から重点施策と捉えており、健康寿命の延伸や介護予防など、住み慣れた地域で安心して暮らせる取組を進めている。

　また、新型コロナ感染症等の危機事象への対応については、当然、最優先に取り組むべきことと認識している。

◆その他の質問

○ロシアのウクライナ侵略に目に見える形で意思表示を

○コロナ禍での学校負担減へ、研修削減と人員配置増を

再整備に向け工事を進める③街区

市駅周辺再整備について全員協議会を開催

③街区の進捗状況

④⑤街区のまちづくりの取組

議会は、２月25日の本会議散会後、「枚方市駅周辺再整備における取り組み状況について」を案件とした全員協議会を開催しました。

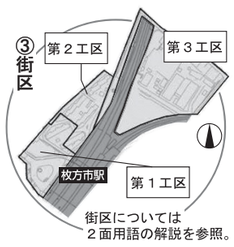
本件に関し７度目の開催となる今回は、③街区の市街地再開発事業や駅前行政サービスの再編に係る取組、④・⑤街区のまちづくりの取組状況と今後の予定などについて、理事者から説明を受けました（概要は下記参照）。なお、これらに対する質問は、代表質問や予算特別委員会で行われました。

③街区における市街地再開発事業の取組状況と今後の予定

〈主なスケジュール案〉

	３年度	４年度	５年度	６年度
第１工区	解体工事			
	実施設計	新築工事		
第２工区	解体工事			
	実施設計	新築工事		
第３工区	解体工事			
	実施設計	新築工事		

市駅前行政サービスの再編に係る取組状況と今後の予定



▶③街区第３工区の再編に係る内装設計の契約期間を４年度前期まで延長し、内装工事を５年度に実施、６年度に開設を目指す

▶枚方市駅高架下の観光ステーションや市民室サービスセンター等は、③街区のまちづくりに合わせてリニューアル工事が実施されるため、市駅周辺への一時移転並びに撤去工事を予定

④・⑤街区のまちづくりの検討状況と今後の予定

▶④⑤街区のまちづくりの考え方（骨子案）の取りまとめ＜４年２月＞　▶本骨子案を基にサウンディング（＊２）型市場調査を実施＜４年３～５月、下記※参照＞　▶調査の概要を報告＜４年６月＞　▶④⑤街区の市有地を有効活用したまちづくりの考え方（案）として、新たな土地利用や誘導するコンテンツの考え方を整理＜４年９月＞

※サウンディングで提案を求める内容　▶④街区の民間活力導入エリアに導入するコンテンツ▶導入するコンテンツと連携した公園、広場の活用▶その他、より魅力的なまちづくりとするための提案など

委員協議会だより

総務委員協議会　２月14日

（１）令和４年度防災対策の推進について
（２）街頭防犯カメラの更新及び増設について
（３）長期財政の見通しについて
（４）令和４年度機構改革の実施について
（５）ロジックモデル等を活用した事務事業の見直し内容について
（６）健康経営の推進について
（７）令和３年改正個人情報保護法の概要について

教育子育て委員協議会　２月17日

（１）子どもたちが健やかに成長できる環境づくりについて
（２）結婚等新生活支援事業について
（３）待機児童対策について
（４）子育て支援の充実について
（５）市立小学校の水泳授業における民間活力の活用について
（６）小中学校教室等空調設備の更新及び体育館空調設備の整備について
（７）令和４年度教育委員会機構改革の実施について
（８）禁野小学校の開校に向けた取り組みについて
（９）中学校給食のあり方について
（10）学校給食牛乳パックのリサイクルについて
（11）第４次枚方市子ども読書活動推進計画（案）について
（12）総合型放課後事業実施プランについて

市民福祉委員協議会　２月16日

（１）令和４年度国民健康保険料等について
（２）後期高齢者医療の保険料等について
（３）地方税制改正の概要について
（４）総合的ながん対策の推進について
（５）成果連動型民間委託契約方式（ＰＦＳ）による介護予防事業の実施について
（６）健康経営の推進について
（７）定期予防接種の推進について
（８）重層的支援体制整備事業について
（９）市立ひらかた病院改革プラン（第２次中期経営計画）の実績報告について
（10）令和４年度の病院運営について
（11）医療従事者の処遇改善について

建設環境委員協議会　２月15日

（１）事業系ごみ処理手数料の見直しについて
（２）学校給食牛乳パックリサイクル事業について
（３）屋外広告物の安全点検及び特定区域の見直しについて
（４）小中学校教室等空調設備の更新及び体育館空調設備の整備について
（５）市街化調整区域内における開発行為の許可について
（６）新名神高速道路の進捗状況について
（７）枚方市無電柱化推進計画の策定について
（８）都市計画道路長尾杉線の進捗状況について
（９）王仁公園再整備と管理・運営の基本方針（素案）について
（10）枚方市駅高架下及び光善寺駅前機械式自転車駐車場、並びに光善寺東自転車駐車場の廃止について
（11）枚方市水道ビジョン2022及び枚方市下水道ビジョン2022の策定について
（12）令和４年度上下水道局機構改革の実施について
（13）公共下水道第69工区楠葉雨水貯留管整備工事等の進捗状況について

所管事務調査

議会の４つの常任委員会は、委員会の発議により委員協議会を開き、所管する事務について自主的に調査を行いました。

・2月7日　建設環境常任委員会
地球温暖化対策・再生可能エネルギーの取組について

・2月8日、24日　総務常任委員会
公民連携の推進について

・2月9日　教育子育て常任委員会
主体的な学びにつなげるＩＣＴを活用した学校教育について

・2月16日　市民福祉常任委員会
高齢者のＩＣＴ利用促進事業について

＊２　サウンディング…行政が事業検討の段階で民間事業者からの意見、提案等を把握すること。

＊３　ヤングケアラー…病気や障害、高齢、精神的な問題などを抱えた家族に対し、大人が行うようなケアを日常的に担う18歳未満の子どものこと。

　ケア内容には、食事、入浴、排せつの介助、きょうだいの世話、料理、洗濯、掃除等の家事、病院の付添いや服薬管理などが含まれており、年齢や成長の度合いに見合わない責任を引き受けるため、学校生活等に影響が出るケースも見られる。

＊４　ＤＸ（Digital Transformation）…「ＩＣＴの浸透が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念で、新たな価値を創造することを目的に、デジタル技術の駆使によって既存の枠組みを変化させること。

＊５　スクールロイヤー…学校で発生する様々な問題について、子どもの最善の利益を念頭に、教育や福祉等の視点を取り入れながら、法的観点を持って継続的に学校に助言を行う弁護士のこと。

＊６　スクールソーシャルワーカー…教育分野に加え、社会福祉に関する専門的な知識や技術を有し、問題を抱える児童、生徒が置かれた環境への働きかけや、関係機関等とのネットワークの構築など、多様な支援方法を用いて課題解決を図る人材のこと。

＊７　地区防災計画…地域コミュニティーの防災力向上等のため、地区住民等が自らの防災活動に関して定めた計画のこと。

＊８　地域防災計画…市民の生命、身体及び財産を災害から守るため、災害の予防や応急対策、復旧、復興の方法などをあらかじめ定めた、市が作成する計画のこと。

＊９　パンデミック…感染症が急に拡大し、世界的に大流行すること。